

令和7年 網走市議会
文 教 民 生 委 員 会 会 議 録
令和7年11月21日（金曜日）

○日時 令和7年11月21日 午後1時47分開会

○場所 議場

○議件

1. 行政視察の取りまとめについて

○出席委員（7名）

委 員 長	古 田 純 也
副 委 員 長	栗 田 政 男
委 員	金 兵 智 則
	里 見 哲 也
	永 本 浩 子
	平 賀 貴 幸
	古 都 宣 裕

○欠席委員（0名）

○議 長 松 浦 敏 司

○傍聴議員（3名） 石 垣 直 樹
深 津 晴 江
村 椿 敏 章

○事務局職員

事 務 局 長	岩 尾 弘 敏
次 長	本 橋 洋 樹
総務議事係長	和 田 亮
総 務 議 事 係	山 口 諒

午後1時47分開会

○古田純也委員長 ただいまから、文教民生委員会を開催いたします。

本日の議件は、行政視察の取りまとめについてになります。

10月7日から10日の行政視察で福岡県筑後市、熊本県荒尾市、熊本県天草市に伺い、その後、皆様にはレポートを提出していただきました。

本日は、皆様から所感を述べていただきたいと思います。順番によろしいですか。では、古都委員のほうからよろしいですか。

○古都宣裕委員 報告書のほうで書かせていただいているのですが、図書館二つと、天草市のほ

うで博物館と高齢者の在り方について視察させていただきました。

図書館のほうで共通している項目がありまして、小学生等にスタートアップ、ブックスタートのときに図書カードを作ってお渡ししたりとか、簡単に組みめるのではないかなというところもありました。

各委員の報告書も読ませていただいている中でなんですけれども、それは後でちょっと意見させていただきたいと思うのですが、天草市のほうでもコミュニケーションで生きがいで少し運動、体操等をやることによって御高齢の方でも運動能力が飛躍的に向上するということがあったので、雪が降らない地域というところの特性とかいろいろな、1人でも100メートル200メートル以内にコミセンがかなり点在するという地域的な特徴もありましたけれども、それらをどうやって網走に生かしていくかというところで考えさせていただきました。

また、恐竜博物館も見させていただいて、網走市、化石が取れないわけではなくて、いろいろ遺跡等もある中で、学芸員が見せ方をすごく工夫しているというところに感銘を受けました。網走市では、モヨロ貝塚館がこれに当たって、学芸員の創意工夫によって貝塚の見せ方とかをつくり上げたりというところが見られるんですけれども、ほかはないのかといったら、流水館に対しては何か専門的な知見をもって見せ方を工夫しているところがあるのかなというところを考えたりとか、非常に考えるところがあったところでもあります。せっかく見てきたところ、1ミリでも網走市にどうやって落とし込むかというところを考えて視察レポートを書かせていただきました。

以上です。

○里見哲也委員 ありがとうございます。

今回、特に気になったというか、二つを主に。

最初のちっちゃな図書館、筑後市ですね。ここで、家族で絵本プロジェクトというのにすごくいいなというか、ブックスタートの話なんかでは、網走とも共通するところも何らかはあるんだと思うのですが、不思議な世界を冒険しようをテーマに、絵本5冊をドライブスルー方式で配布してい

る、これにちょっと関心があって私も子供の頃はちょっと大家族だったのもあって、親は仕事しているので、じいちゃん、ばあちゃんと一緒にいることの中で、絵本ってあったのですよね。なので、そのことがいまだに記憶に残っていたりするので、これは何ていうかな、図書に対するなれ親しみのスタートというのか、ひょっとしてすごく意味深いことなのではないかなというようなことを感じてきました。それを積極的にやっていて、家に本のない家族向けに、その子にとって大切な一冊をめぐりあわせるみたいな説明がありましたけれども、そういう大きな目的があって、今すぐ答えが出ないのかもしれないけれども、この町の絵本に限らないかもしれないですけれども、どんどん小学生、中学生となっていくときに、どのような豊かな心を持つのかになっていうのに関心があったので、追跡フォローはなかなかできないですけれども、重要なテーマだったなというふうに感じました。

それから、二つと言いましたけれども、もう一つは天草市の高齢者の自主活動通いの場という、182か所あるっていう。これ網走でいえば、ふれあいの家でやっていることに近いかなというふうに思うのですけれども、もちろん、どっちがいいとか、すぐれているとかっていうのではないですけれども、歩いて通える場所がこれだけ、市民が場所とか運営を協力してやっているというのは、高齢化率が高い町ということでしたけれども、いずれはこういうふうになって、市が何をやるのかというよりも、携わっているけれども、やっぱり住民が率先して自分たちの健康とか認知にならないようにというのも含めて、積極的に住民同士が182か所も立ち上げるほど活動しているということが、網走の何年か先もこういうふうになっていったらいいなというふうに思いました。

以上です。

○金兵智則委員 今回、3市4か所を視察をさせていただきましたけれども、事業の中身ですとか感じたこと等々はレポートのほうにまとめさせていただいておりますけれども、今回、現地でお話を聞いて思ったのは、どの市の担当の皆さんもすごい熱い思いを持ってやられているんだなっていうのが、やっぱり先進事例っていうのは、そういうところから始まるのかなあいうふうに思いました。まねできるところは各事業についてまねしていけばいいと思いますし、ただ、網走市の事業としても職員さんが熱意

であったり、楽しみであったり、そういうものを持てるような事業をできるように僕らもいろいろと協力していく必要があるのかなというふうに思った次第です。

あと今回の視察、御準備いただきました委員長、副委員長、事務局の皆さん、そして現地で対応していただきました各市の職員の皆さんに、改めてお礼を申し上げたいなというふうに思います。

以上です。

○平賀貴幸委員 私からも簡単にですが、述べさせていただきますと思います。

まず、筑後市ですけれども、職員さんの熱意が、それから確かな知識と信念が図書館をまちづくりの拠点たらしめているんだなというふうに感じたところです。網走市の図書館で同様の取組をするのは簡単ではないんですけれども、できることから始めるのが大事なのかなということだと、レファレンスサービス、こちらのほうの充実が非常に大事なんだなということを改めて感じたところです。

続いて熊本県荒尾市の図書館ですけれども、ここは商業施設内の空き店舗対策も兼ねての図書館移転ということで、商業施設の再構築にもつながっておりますし、利用増もあったということで、一つ新たな図書館を造るとき参考にはなるのかなというふうに感じたところでございますが、まずは参考になったというぐらいなのかなと思います。

続いて天草市の地域支援事業で、高齢者の自主活動、通いの場、助け合いの場でもあるんだと思いますが、設置箇所の多さに驚いたということと、自主的な活動がここまできめ細かくできているというのは、大変すばらしい事例だなというふうに感じたところです。網走市の高齢者のふれあいの家を発展的に見直す必要性というのがあるのかなというのを感じるところです。

そして恐竜の島博物館で、同じく天草市の2件目ですけれども、地域のコミュニティセンターなどを核にして、どうまちづくり、地域づくりを進めていくのかという事例として参考になりました。なかなか同様のことができないのは、承知しておりますが、一つそういった視点を持たなければいけないのだなということを改めて感じたところです。

以上でございます。

○永本浩子委員 今回、4か所視察に行かせていただいて、どこも本当に勉強になるいい視察だったなと思っております。まずは、ここを選んでいただい

て本当に感謝しております。

最初の福岡県筑後市のちっちゃな図書館、ともかく一ノ瀬館長の情熱とアイデア、実行力、まずはこの1人の存在のすごさっていうのを感じましたけれども、この取組の中でも私としては一番気に入ったのは、このガチャ本の企画ですね。やっぱり自分の好きなジャンルの本ばかりに偏ってしまうようにしないために、親子でガチャ本という、段ボールとペットボトルを使ってやって、ゲーム感覚で出てきた本をまず読む。そして、そのゲームで感想文が当たると、その感想文を書いたら今度は商品がもらえたりとか大好評で、企画の期間も延びたということで、こういった企画とか、4か月健診のときに絵本を贈呈する。これは、ブックスタートということで網走もやっているんですけども、筑後市は、そのときに親子と読み聞かせの人と一対一で、渡した絵本を読み聞かせてあげているっていう、ここの取組が違って、そうするとお母さんも、こういうふうに読んであげると子供がこんなふうに興味を示すんだっていうところも大変勉強になったりとか、その時点で図書カードをプレゼントしていたりとか、また本で恋活という、カップル成立率が非常に高いということで、どうしてなのかなと考えたときに、やはり自分の好きな本の中身を発表し合うというコーナーがあるようで、そういったことによって、人柄がわかったりとか会話のきっかけがつけられたり、また市内企業のお金をちょっと、応援していただくということで、そういう企業による何でしたっけ、雑誌を新鮮化するための取組、その雑誌の裏にはちゃんとその企業の宣伝を広告を載せていることとか、非常に勉強になる内容がたくさん、雑誌スポンサー制度ですね。網走でもこういったところを取り組んでいければと思いました。

あと荒尾市のほうは、商業施設の中に図書館を造ったということで、紀伊國屋書店がそこにあつてということで、かなり条件的には、網走ではなかなか難しい、シチュエーションではあつたかと思えますけれども、でも図書館を活用して、いろいろなところとのコラボ企画をいろいろしていたりとか、子供たちへのタブレットを活用した電子図書の貸出しとか、こういったこととかは、網走でも取り組んでいこうと思えば、できるものではないかなと思いました。

次に、天草市の通いの場の推進。これ本当にすごいなと思って、先ほど話がありましたけれども、網

走もふれあいの家がありますけれども、市内全部で13か所、14か所あつたのが多分13か所になったかと思うのですが、これが182か所もあつて、ほぼ市の手出しなしで住民主体でやっているという。本当にこの取組、網走もぜひ見習いたいと思いました。そして認知症サポーター等も網走でもやっていますけれども、網走は1回講習を受けるとサポーターになりますけれども、この天草市の取組は本格的で、本当にしっかり勉強した人が認知症サポーターになり、そのサポーターの方たちの8割が、既にこの通いの場で活躍しているという。網走も、やっぱり健康コンシェルジュ匠とか認知症サポーターの方も人数はたくさんいるけれども、活躍の場がやっぱりつくれてないっていうところとか、この100歳いきいき体操、DVDを送っていただいたんですけども、しっかりそれも見させていただいて網走のカニチョッ筋体操とどこが違うのか、何かいいものを網走にも取り入れていければと思っております。

最後に、恐竜の島博物館ですけれども、本当に見せていただいた私たちが本当にわくわくさせていただいて、まだまだずっとあそこの博物館にいたいというのが、皆さん共通の感想だったのではないかと思いますけれども、本当に学術員がきちんとした正しい内容の説明をしてくれて、そして子供たち、小・中学生は全員ただで発掘体験をさせてもらって、珍しいものを発掘した人は、永久にそこの博物館に行ける、何とか証というのをもらえたりとか、クレヨンしんちゃんとのコラボ企画とか、本当に網走もモヨロ貝塚とかいろんな、そういったところの取組の中にも、体験と学びと発信というところで勉強になる部分があるのではないかなと思って帰ってまいりました。

ありがとうございました。

○栗田政男委員 重なりますので短めにしたいと思います。

筑後市は、本当に1人の主婦が図書館を変えていく姿、それが最終的には文科省の表彰がされるまでの実績を上げている。そこで感じたことは、この町って結構文化レベル高いのかなと。図書館の充実というのは、もしかすると、その町に住む条件の一つとして捉えられているようなことをお聞きしましたし、そういう部分では、九州は本当に文化レベルが高いなというふうに思いました。

荒尾市も同じように、武雄市が昔、図書館に民間の蔦屋を、それを私たちは聞きに行ったことがある

んですが、それと逆バージョンです。何よりもびっくりしたのは、ランニングコストで家賃が600万弱かからないので、ということは単独で造るとすごいお金がかかるんですよ、図書館って。すばらしい実績ですし、先ほど来出ていますが紀伊國屋のノウハウをいただきながら、一緒になって新しい本も、貸出しの本も含めて運営しているというのはすばらしい事業だし、まさにこれからのモデルケースではないかなというふうに思います。空いているテナントを埋めるわけですから、業者さんのほうも非常に助かると。これはすばらしいなことと、人が集まる場所に造るということはすごく大事なのかなという気もしました。

天草市ですが、皆さんの感想のとおりですよ。今でもここに残っているのは、お年寄りのビデオの中でお金を使わないでくださいと、私たちはもう十分ですから、そのお金があるんだったらほかのところに使っていたきたいという考えの下に、やっぱり生きがいを見つけているんですね。高齢になればなるほど、何か目的を持って毎日を過ごさないとなかなか健康状態を保てないという、やることがないというのはやっぱり人間として一番寂しいかなという気もしていますので、そんな意味から非常に感銘を受けました。

皆さんからも出ていましたが、恐竜はどちらかというと観光施設というふうに捉えました。これはすばらしいなって、私たちもそれで天草市の御厚意で海上タクシー、すばらしいクルーザーで往復してもらって、たまたま暖かかったので、すごいクルージングですよ。そういう状況を経験して、離れた島ですからみんなフェリーで車で来たり、独特の環境が、ちょっと北海道では考えられない環境がそこにあるのかなという気がしました。内容、博物館も含めて、やっぱりそれを文化レベルとして持ち上げていく、いろいろな歴史感覚も含めて、九州だから特別歴史感が北海道と違ってあるのか、先ほど古都委員が言っていたように、モヨロ貝塚、米村さんに一生懸命説明してもらおうと本当によくわかります。だからあれと同じような、もっと大きな規模でしたけれども学芸員の方が一生懸命誠意を持って話すというのは非常にいいのかなと思いますし、観光コンテンツとしてもすばらしいものではないかなと思います。

詳細については、レポートを提出していますので、そちらを見ていただければと思います。

以上です。

○古田純也委員長 各委員の皆様、ありがとうございます。

私のほうからも、皆さんと被る点もありますが、やはり一生懸命やっている担当者の熱意、そして行動力というものはすばらしいものがあるなと。だから成り上がっていくのかなと感じました。それを支える周囲の皆様方もすごいなっている部分があります。特に天草の恐竜博物館、子供たちを招いて、地域の歴史、また体験を通じながら、教育をモデル化しているっていうのは、網走でも学ぶべき点はあるのかなというふうに感じております。図書館、それから博物館、網走にもあります。何とかリピーター率が上がるような工夫をしっかりと考えていくべきかなっていうのを実感しました。

提出していただきました報告書は、フォント等の体裁を整えた上でホームページへ掲載してもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、そのようにしたいと思います。ほかに何か皆様から御意見等ございますか。

○古都宣裕委員 昨年の視察でも申し上げたのですが、けれども、せっかく見てきて、私たちが視察してきたところ、種々、いろんな皆さんの角度で見たので、せっかくなので担当課と話した上で、どこまで実現できるかという、政策的に前に進めるために我々が視察してきたと私は認識しているので、そのような形でちゃんと話をし、少しでも前に進められるように担当課と話し合えるような場をつくっていただけるといいかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○古田純也委員長 休憩入ります。

午後2時08分休憩

午後2時15分再開

○古田純也委員長 先ほどいただきました古都委員の意見ですが、今後の考え方、いろいろとあると思いますので、正副でちょっとまとめまして、せっかく行政視察行ってきたことを生かすように前に進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

ほかに何か、意見がございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これをもちまして文教民生委員会を終了いたします。

午後2時16分閉会